

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 第3次産業活動指数(2006年5月)
 ~コンセンサスを上回りプラスを維持~

発表日2006年7月18日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 結城 良彦
 TEL : 03-5221-4573
 (単位:%)

		第3次産業活動指数		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	サービス業
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
04	1-3月	0.0	2.5	1.8	▲3.0	▲0.5	▲0.1	1.0	▲0.2	▲0.6	1.0	▲0.2
	4-6月	1.6	2.5	1.6	3.3	0.7	0.5	2.4	1.6	0.5	0.7	3.0
	7-9月	▲0.2	2.4	0.2	▲3.4	0.5	0.1	▲1.9	0.1	▲0.8	0.9	0.8
	10-12月	0.6	2.0	▲2.4	3.7	▲0.1	▲0.1	0.6	0.6	▲0.1	0.2	1.5
05	1-3月	1.2	2.1	3.7	▲1.6	0.4	1.5	1.6	▲0.2	2.1	0.7	2.1
	4-6月	0.2	1.9	▲0.9	0.9	1.2	▲0.2	▲0.5	0.9	▲0.1	▲0.1	0.3
	7-9月	0.4	2.2	0.0	▲0.7	▲0.1	▲0.2	3.0	0.7	0.0	0.0	0.6
	10-12月	1.1	2.6	3.6	2.1	▲0.5	1.1	4.4	1.1	0.9	0.6	▲0.2
06	1-3月	0.3	2.0	▲0.7	▲1.3	0.6	0.6	▲1.1	▲0.7	1.2	0.9	0.6
05	1月	1.6	3.1	3.5	▲2.8	0.5	4.1	2.5	▲0.6	▲0.5	0.8	1.3
	2月	▲0.7	1.5	2.0	0.8	▲0.5	▲2.4	▲0.7	0.3	▲0.6	▲0.5	▲0.2
	3月	▲0.4	2.0	▲0.7	▲1.2	1.9	▲2.2	▲0.2	▲1.2	0.0	0.5	▲0.5
	4月	1.0	1.9	▲0.2	1.0	0.3	2.6	0.2	1.1	0.3	▲0.1	0.8
	5月	▲0.8	1.9	▲2.1	▲1.0	▲0.8	▲1.0	▲0.3	0.8	▲0.4	▲0.2	▲0.9
	6月	0.6	1.9	1.8	3.4	1.2	0.4	▲0.3	0.1	0.1	▲0.3	1.5
	7月	▲0.3	1.3	▲3.2	▲2.9	▲0.6	0.1	1.1	▲0.2	▲0.2	0.1	▲0.4
	8月	1.1	3.2	3.9	1.0	0.3	0.7	2.5	1.1	0.0	0.6	0.7
	9月	▲0.7	2.0	0.6	▲0.8	▲0.6	▲2.1	1.3	▲0.5	0.9	▲0.7	▲0.5
	10月	1.0	3.2	0.4	4.6	▲0.4	1.6	1.5	0.9	0.2	0.0	0.0
	11月	0.3	2.7	▲0.4	▲3.1	0.3	0.9	1.0	▲0.2	▲0.5	0.7	0.4
	12月	0.0	2.2	5.3	▲0.6	0.1	0.4	1.2	0.6	1.6	1.2	▲1.2
06	1月	1.5	2.3	▲2.6	2.9	0.2	3.1	0.0	▲0.3	▲1.0	0.7	1.9
	2月	▲1.4	2.5	▲1.5	▲2.8	▲0.8	▲3.5	▲1.9	▲1.3	1.6	▲2.0	0.7
	3月	▲1.1	1.2	▲0.8	▲2.3	2.3	▲1.9	▲2.9	0.0	0.6	1.8	▲2.9
	4月	1.6	2.1	2.5	3.2	▲1.4	2.9	2.2	1.0	▲0.1	▲1.9	2.3
	5月	0.5	3.3	▲2.3	▲1.9	▲0.1	0.8	▲0.3	0.1	0.4	2.1	1.6

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

○ 第3次産業活動指数：前月比+0.5%と2ヶ月連続上昇

5月の第3次産業活動指数は前月比+0.5%となり、市場予測（コンセンサス▲0.1%、レンジ▲1.0%～+1.0%）を上回った。上昇した業種はサービス業、医療・福祉、卸売・小売業、学習支援業、飲食店・宿泊業、複合サービス事業、不動産業の7業種である。先月から引き続き、主要11業種のうちの過半数が上昇に寄与している。4-5月平均を1-3月期と比較しても+0.6%となっており、第3次産業活動指数の緩やかな上昇基調が改めて確認できたといえよう。

上昇に寄与した業種のうち影響が大きかったのは、サービス業（前月比寄与度+0.34%ポイント）や卸売・小売業（同+0.19%ポイント）である。特にサービス業では対個人サービスが堅調な伸びを示しており、雇用環境の改善を背景とした個人消費の回復が確認できる結果となった。

なお、今月は4月の値も情報通信業を中心に上方改訂（前月比+1.6%←同+1.3%）されている。これは、4月の情報通信業が暫定値を用いて集計されていたためであり、今回の改訂で情報通信業は大幅上方修正（同+3.2%←同▲2.5%）された。

○ 個人消費の回復見込み

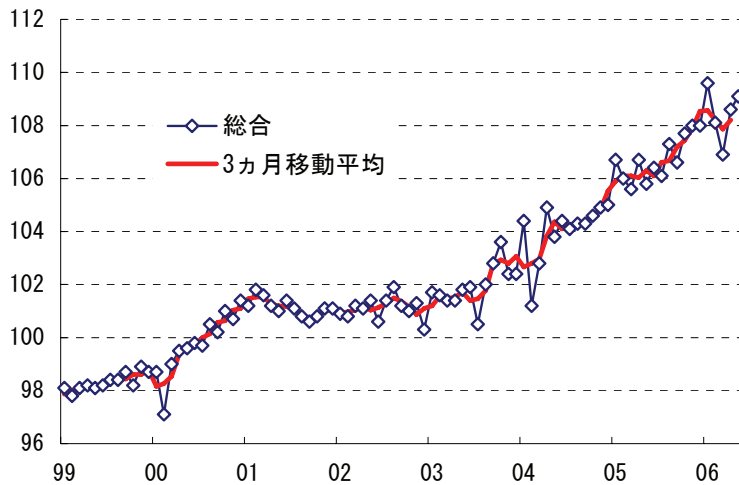
家計調査や商業販売統計、業界統計等からみれば、4、5月の個人消費は天候不順の影響から全般的に不振となっている。そのため4-6月期のGDP個人消費は1-3月期から伸びを鈍化させるとみられるが、本日の第3次産業活動指数をみる限り、個人消費の基調はそれほど悪いわけではない。雇用環境も改善してきていることから、天候不順の一時的要因が剥落すれば、個人消費は再び回復基調に復帰するとみられる。

○全産業活動指数も堅調に推移する見込み

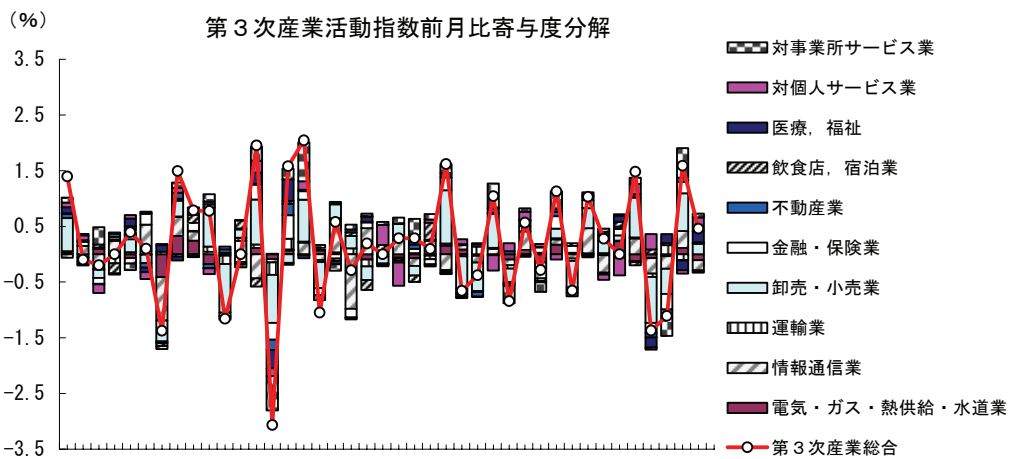
今回の第3次産業活動指数の結果をもとに5月の全産業活動指数を予測すると、前月比▲0.1%と小幅減少になる見込みである。ただし、第3次産業活動指数の改訂を受けて、4月の全産業活動指数も同+1.3%から+1.5%に上方修正されると考えられる。全産業活動指数の上昇基調に変わりはないことから、5月のマイナスをそれほど悲観する必要はないだろう。4-5月平均も1-3月期平均から+0.6%ポイントの上昇と、良好な結果であり、供給サイドから見ても景気の堅調さが改めて確認できたといえる。

今後の見通しとしては、設備投資が引き続き堅調に推移する見込みであることや、前述の通り、天候不順要因が剥落すれば個人消費も回復基調に戻るとみられることから、景気も安定して回復を続け、全産業活動指数も堅調に推移していくと考えられる。

第3次産業活動指数（季調値）



(出所) 経済産業省



(出所) 経済産業省